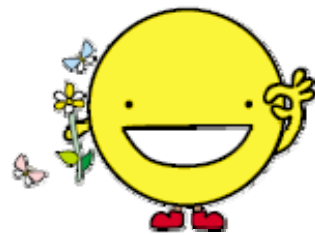


## 報告事項（2） 専門部会の報告



- 1 糖尿病対策部会（平成 22 年 6 月 1 日）
- 2 歯科保健対策部会（平成 23 年 1 月 25 日）
- 3 循環器疾患対策部会（平成 23 年 1 月 28 日）
- 4 がん対策部会（平成 23 年 2 月 2 日）
- 5 地域職域連携推進部会（平成 23 年 2 月 4 日）



健康長寿あいち  
マスコットキャラクター  
「エアフィー」

糖尿病対策部会	
開催日	平成 22年 6月 1日 ( 火 )
議 題	<p>1 平成22年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について</p> <p>ア 大学生へのメタボリックシンドローム予防事業について</p> <p>イ 糖尿病対策地域連携調査事業について</p> <p>2 健康日本21あいち計画「糖尿病分野」の評価の考え方について</p>
部会の検討状況	<p>1 平成22年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について</p> <p>ア 大学生へのメタボリックシンドローム予防事業について</p> <p>○ 平成20年度に県内大学生約1,500人を対象に生活習慣と2日間の食事調査を実施した。その結果から男子学生の約5割、女子学生の約3割に朝食欠食習慣がみられることや脂肪エネルギー比率が「日本人の食事摂取基準(2010年)」が示す望ましい範囲の上限(30%)を上回る者が5割存在することが判明した。</p> <p>このことから、大学生等向けの啓発映像を作成するため、内容等について協議する。</p> <p>※ 啓発映像「あなたの生活習慣ホントに大丈夫!？」を作成、平成23年2月1日から動画配信サイト「YouTube」にて公開</p> <p>イ 糖尿病対策地域連携調査事業について</p> <p>○ 糖尿病発症・重症化予防の観点から糖尿病に関する医療機能情報を共有することが、地域連携体制づくりにつながることから、「糖尿病対策推進のための医療施設における情報調査」を行い、同意を得た医療施設に関しては「糖尿病対策医療機関情報一覧」として配布することにした。</p> <p>そのための調査項目について、協議検討を行った。</p> <p>※ 調査については、県内医療機関4,314施設を対象に行い、2113施設(48.9%)の回答を得て、現在集計中</p> <p>2 健康日本21あいち計画「糖尿病分野」の評価の考え方について</p>
健康日本21の評価について	<p>健康日本21あいち計画評価推進部会の開催前であったため、評価推進部会へ提出する「評価の考え方」について、委員からの意見をさく。</p>
今後の方向性	<p>平成22年度事業として、若年層向けの啓発映像を作成するとともに、医療施設の医療機能情報を共有するための調査を実施した。</p> <p>平成23年度以降も県民の健康意識を高め、糖尿病発症予防・重症化予防に向け、従来から進めている「人」「食環境」「情報」の整備を展開していく。</p>

歯科保健対策部会	
開催日	平成23年 1月25日(火)
議 題	<p>報告 平成23年度歯科疾患対策事業(案)について</p> <p>議題 (1)健康日本21あいち計画「歯の健康」の最終評価に向けて (2)愛知県の歯科保健対策の推進について</p>
部会の検討状況	<p>(1)健康日本21あいち計画「歯の健康」の最終評価に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8020達成者の実態の把握方法については、全国的な課題である。愛知県として、質問法などで定量的に把握できる手法を開発する必要がある。8020 表彰者数を当該年齢人口で割った数値で試算してはどうかと意見が出された。</li> <li>○ フッ化物洗口の評価については、全体評価の基準で評価するが、中間目標で目標値を上方に設定したため、「達成」ではなく「改善」の評価結果となっている。中間評価は数値を上げるためのものであり、本来の評価は最初と最後で比較するべきである。</li> <li>○ 1歳6か月児、3歳児健康診査結果では、う蝕有病者率は全国都道府県で最低値であり、12歳児一人平均う歯数においても、新潟県に次いで全国 2 位と少ないのは、フッ化物洗口をはじめとする、あいち計画での本県の取り組みの成果であると評価できる。</li> </ul> <p>(2)愛知県の歯科保健対策の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域・職域保健連携推進事業として、商工会議所等と連携し、保健所が持っているノウハウを提供しているが、管内地域には膨大な数の事業所があり、力が及ばないのが現状である。事業所の取り組みには地域格差があるため、事業所と行政とのタイアップは必要である。</li> <li>○ 地域の8020達成者を幼稚園等に招く、世代間交流の活動は大変面白い。事前にある程度意見をまとめておくなど、歯科保健の技術面の方法を十分検討すべきである。</li> <li>○ 歯周病と糖尿病の医療連携モデル事業を継続してほしい。地区の歯科医師会が糖尿病と歯周病の基礎知識を上げ、医師との連携が必要との意識が向上したことを実感している。</li> </ul>
健康日本21の評価について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8020達成者の割合についての最終評価は、調査方法と課題を明記して「改善」とする。</li> <li>○ フッ化物洗口を実施している小学校数についての最終評価は、コメントをつけて「改善」とする。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2期計画の設定時には、8020達成者の精度の高い新たな調査方法を決め、達成率を追求する。</li> <li>○ 健康対策課のホームページにリーフレットを掲載し、事業所等がダウンロードして活用できるようにする。</li> <li>○ 歯周病と糖尿病の医療連携事業は継続していく。平成23年度以降については、あいち方式を確立していくために、さらに地域を広げるのか、未実施の地域をつめていくのか検討中である。</li> </ul>

循環器疾患対策部会	
開催日	平成23年1月28日(金)
議 題	(1) 循環器疾患登録事業について (2) 平成21年度特定健診等の状況について (3) 特定健診受診者とレセプト状況について (4) 特定健診等の実施状況について (5) 健康日本21あいち計画について
部会の検討状況	<p>○ 今部会では、登録事業としては最終年分である平成21年分循環器疾患登録事業の集計結果報告、特定健診の実施状況報告、特定健診受診時に受診者本人が記載する問診票の信頼度の検証、その問診票の回答から得られる集計成績の利用方法と分析手法、健康日本21あいち計画の最終評価への意見照会を行った。</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定健診受診時に記入する問診票の既往歴の信頼度については、レセプトと照合する等して、更なる検証が必要である。</li> <li>・ 特定健診は、各医療保険者が実施するものであり、受診者の加入する保険が変わった場合、同一人と識別でない弱点がある。</li> <li>・ 重症者や亡くなった方は、翌年に特定健診を受けないが、その事実を把握することができないため、データ集計を行う際は、致死率等の何らかの方法による補正を行う必要が考えられる。</li> <li>・ 医師会が請け負って実施する特定健診について、受診者の保険が変わっても、同一個人として識別できるシステムを構築している自治体もあり、そのような情報を収集し参考にするよ。</li> <li>・ 得られたデータから、どのような目的の下に分析を行っていくのかを検討すること。</li> </ul>
健康日本21の評価について	特になし。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、特定健診受診者時に記入する問診票に記載された脳血管疾患及び心疾患の既往歴により、発症したと推定される方を選定し、経年における生活習慣の変化等の状況を把握することにより、疾患の対策を行う。</li> <li>・ 受診者が記入した問診票の信頼性を再度確認することに努め、その分析方法等については、今部会における委員からの意見を踏まえて、可能な部分から改善を進めていく。</li> </ul>

<b>がん対策部会</b>	
開催日	平成23年2月2日(水)
議 題	1 愛知県がん対策推進計画及びアクションプランの進捗状況について 2 がん登録事業について 3 平成22年度各がん検診精度管理委員会開催結果について 4 健康日本21あいち計画について
部会の検討状況	<p>【愛知県がん対策推進計画及びアクションプランの進捗状況について】</p> <p>【がん登録事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画の全体目標である年齢調整罹患率・死亡率の低減について、死亡率は予測通りに下がっているが、罹患率は上がっている。罹患率は、がん登録の精度が良くなれば上がるため、真に増えているか否か評価は難しいが、全国の罹患率が登録精度の向上に伴い2000年から上昇していることからすると、愛知県の罹患率の上昇も登録精度の向上に関連していると考えられる。</li> <li>○ がん登録の精度は向上してきているが、医師会等にごがん登録への協力を働きかけることにより、さらに精度の向上を図っていく。</li> <li>○ 計画の目標である、がん診療連携拠点病院における5大がんの5年生存率の公開が進んでいないのは、生存の調査が難しいと推測されるので、生存を確認できるシステムが望まれる。</li> </ul> <p>【平成22年度各がん検診精度管理委員会開催結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 検診は、受診の勧奨が重要であり、最初に受けるきっかけとして無料クーポンは一定の効果がある。また、検診の案内が丁寧な市町村は、検診受診率が高い傾向にある。</li> <li>○ 無料クーポンの配布により受診率は上がったが、その利用率は20～25%程度だった。ただ、クーポンを使用して、初めて受診した人に、がんが見つかる確率が高いという印象があるので、検診を受ければ効果があるといえる。</li> <li>○ 受診率が低いままの市町村があるが、前年の実績から検診への予算措置に影響されることが原因ではないか。そうした市町村には、何らかの働きかけが必要ではないか。</li> </ul>
健康日本21の評価について	<p>【健康日本21あいち計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一次予防はすぐには効果が出ないと、地域がん登録の精度が向上していることにより、見かけ上罹患率が上がっており、評価は単純には下せない。</li> <li>○ 指標は、全国に対して愛知県がどの程度というところを見ないと、全体の傾向として一定の方向に向かっている場合、愛知県だけ取り出して評価してみてもあまり意味がないのではないかと。</li> </ul>
今後の方向性 *箇条書き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん対策推進計画の評価において、年齢調整罹患率については、がん登録の精度が安定している地域のデータを用いて検証したり、何らかの補正をするなどして評価できるよう検討する。</li> <li>○ 受診率の低い市町村に対して、文書による指摘をするなどして、受診率向上の働きかけをしていく。</li> </ul>

# 地域・職域連携推進部会

開催日

平成23年2月4日(金)

議題

**報告**

- 1 地域・職域連携推進部会専門会議の開催結果
- 2 平成22年度 特定健康診査・特定保健指導普及啓発強化月間の実績報告

**議題**

- 1 2次医療圏における地域・職域連携推進事業について
- 2 特定健康診査・特定保健指導の実施状況等について

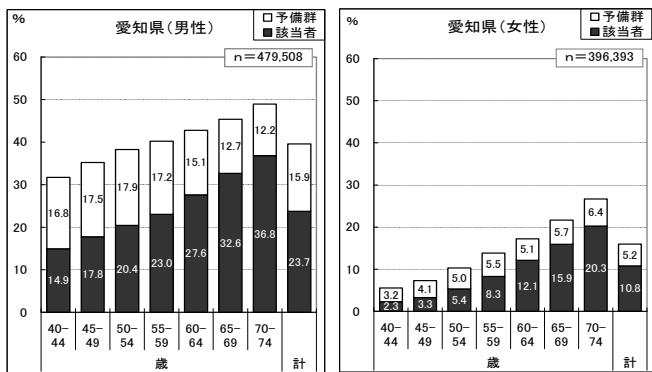
**議題**

- 1 2次医療圏における地域・職域連携推進事業について  
(1)事業内容は、「特定健診・特定保健指導」「メンタルヘルス問題」「たばこ対策」「地域と職域との共催事業」等が多い。
- 2 特定健康診査・特定保健指導の実施状況等について  
(1)データベース作成システムによるデータ取り込み数

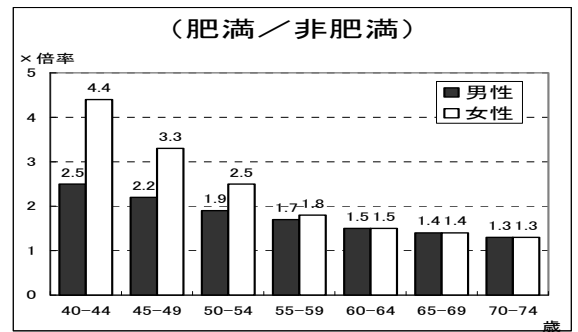
医療保険者	提供総データ数	除外データ数	有効データ数
市町村国民健康保険・国民健康保険組合・全国健康保険協会 健康保険組合(57/110組合) <b>計</b>	901,298	15,399	885,899

(2)結果(抜粋)

ア メタボリックシンドローム予備群・該当者率

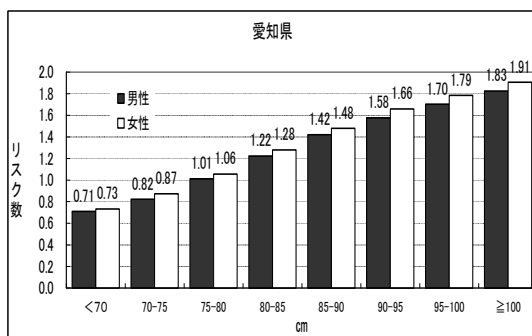


イ 肥満判定別にみた、糖尿病・高血圧・脂質異常のリスクを2個以上持つ人の割合

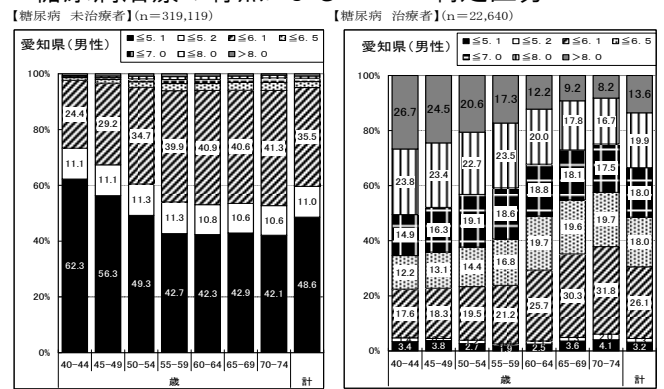


部会の  
検討状  
況

ウ ウエスト周囲径とメタボリックシンドロームの平均リスクファクター数



エ 糖尿病治療の有無によるHbA1c判定区分



今後の  
方向性

- 1 特定健康診査・特定保健指導普及啓発強化月間の強化。(コンビニ・駅構内でポスター、ナナちゃん人形等)
- 2 特定健康診査・特定保健指導情報データの分析・評価の有効活用。  
(生活習慣病対策全般で活用が可能、2次医療圏・市町村・医療保険者別にも集計・分析予定)
- 3 2次医療圏における地域・職域連携推進協議会の有効活用。
- 4 関係機関との連携強化。(データ提供・分析評価結果の還元、普及啓発活動等)

